（様式１）中学校

記　入　例

個別の教育支援計画

「個別の教育支援計画」

生徒一人一人の実態を踏まえ、乳幼児期から学校卒業後までを一貫して的確な教育的支援を行うと共に、福祉、医療、心理、労働等の関係機関との密接な連携、協力に基づいた支援を行うための計画です。

|  |  |
| --- | --- |
| 氏名 | 宮　崎　三　郎 |

〈確認欄〉個別の教育支援計画の内容について確認しました。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | １年生 | ２年生 | ３年生 |
| 平成２６年○月　△日 | 平成　　年月　　日 | 平成　　年　　月 　　日 |
| 保護者印 |  |  |  |
| 学級担任印 |  |  |  |
| 校長印 |  |  |  |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 氏名 | みやざき　さぶろう | 性別 | 男 | 生年月日 | 平成○○年　○月○○日 |
| 宮崎　三郎 |
| ○○立○○中学校 | 学年 | 知・自通常 | 記入者 | 記入日 | 保護者氏名 | 宮崎　五郎 |
| １年 | 通常 | ○○　○○ | H26.○.△ | 住　所 | 宮崎市○○　○丁目△－△ |
| ２年 |  |  | 　 | 連絡先 | ○○○○－○○－○○○○ |
| ３年 |  |  |  | 家族構成（兄弟姉妹の生年月） | 父、母、本人、兄（H○○.○） |
| 生徒の状況（診断名、慢性的な疾病、視覚・聴覚等に関する特記事項） | 広汎性発達障がい（◇◇病院　H22.3） |
| 服薬 | 〔　　・　無　〕薬名（H22.3～　） | 発作 | 〔　有　・　無　〕 |
| 取得している手帳 | 療育手帳〔　有　・　　〕A　　B-1　　B-2　　　　（認定日　　　　　　）（更新日　　　　　　）身体障害者手帳〔　有　・　　〕　　種　　　級　　（認定日　　　　　　）精神障害者保健福祉手帳〔　有・　　〕　　　　　（認定日　　　　　　） |
| 諸検査の状況 | 検査名 | 実施日 | 検査者 | 結果 |
| ＷＩＳＣ－Ⅲ | H21.2.5 | ○○○○　支援学校 | 全検査は正常域言語性は正常域下限～境界域、動作性は正常域、下位検査にばらつきが多い |
| ＷＩＳＣ－Ⅳ | H25.7.26 | △△発達障害者支援センター | 全検査IQ：85言語性IQ：81動作性IQ：95 |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
| 生育歴・療育歴保育歴・教育歴 | 小学校では６年間、通常の学級で学習をしてきた。それぞれ、学級担任等との教育相談を行ってきている。H21. 2. 5 ○○○○支援学校の教育相談を受け、心理検査を実施。H22. 3. 8 ◇◇病院を受診し、広汎性発達障がいの診断を受ける。H23. 7.26～ △△発達障がい者支援センターでの相談を開始（月1 回程度）H26. 2.16　△△発達障がい者支援センターの△△相談員、○○○○支援学校の○○チーフコーディネーター、●●中学校の◆◆エリアコーディネーターに参加を要請し、本人及び保護者も出席して、中学校入学に向けての支援会議を開催。 |

個別の教育支援計画【中学校】

（様式１－１）

個別の教育支援計画【中学校】

（様式１－２）

氏名　　宮崎　三郎

生徒の実態　　　　（　○＝学校、◇＝家庭・地域　）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 学習面 | 生活・行動面 | 対人関係面 | その他・配慮事項 |
| 小学６年 | ○　全ての学習を通常の学級で行った。授業中に寝てしまうことがあったため、授業の中でペア学習やグループ学習を設定したところ、効果があった。興味がある学習（社会、算数）では、積極的に発言する姿が見られる。○　書くことが苦手で時間がかかることから、ノートをとることに抵抗があるため、学習プリントを準備するなど、本人が記述しやすいよう各教科で工夫した。 | ○◇　日常生活の動作は自立している。時間を気にして行動することが苦手であるため、指示を与える際、終了すべき時刻をあわせて伝えるようにしたところ効果があった。○　宿題や教科書などの忘れ物が多いため、宿題や準備物をメモした付箋紙を連絡ノートに貼り、鞄に入れたら剥がすようにしたところ、準備物については改善がみられた。 | ○　仲の良い友達が数人いる。特に、同じスポーツ少年団のＡと仲が良く、Ａからのアドバイスには素直に従う様子が見られた○◇　気持ちを言葉で伝えることが難しく、ストレスが高まったときに固まってしまったり、突然物に当たったりすることがあった。それらの行為があった際に、周りの友達の気持ちを伝えるという指導を行ったが、余り効果が見られなかった。 | ○　いきなり強く非難されたり、指導されたりすると、興奮して逆上することがあった。しばらく時間をおくと落ち着き、指導にも素直に従うことができる。 |
| １年生 | ○　説明を聞くだけの授業では居眠りがある。○　ノートを書いていないことがあるため、色チョークなどを使って書くべき部分を限定する配慮を行うことを共通理解した。○　全ての教科で学年の平均点を下回っているが、３０点以下の教科は見られない。※　定期テストでの特別な配慮について検討。書くことに時間がかかることから、２学期末テストより、別室受験、時間の延長を行うこととなった。（H26.10/21支援会議にて合意形成 学級担任▲▲記入） | ○　プリント類の整理が苦手で、紛失したり、提出期限を守れなかったりすることがしばしばある。○　体育や移動教室時に、授業に遅れることがあった。◇　自室の整理整頓や、脱いだものの片付けなどができず、家族から注意を受けることがしばしばある。 | ○　△△部に所属しており、同じ部活動の友人と過ごすことが多い。○◇　困ったことが起こると、下を向いて黙ってしまい、その場から動かなくなることがある。 | ○ 夏休み明けに、２、３日登校を渋っていたが、その後は登校を継続することができている。宿題が終わっていないことが理由と考えられた。 |
| ２年生 |  |  |  |  |
| ３年生 |  |  |  |  |

個別の教育支援計画【中学校】

（　学年目標　○＝学校、◇＝家庭・地域　）

氏名　　宮崎　三郎

（様式１－３）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 将来の生活についての願い（進路希望） | 本人 | ・ プログラマーになりたい。（H26.4～）・ 県立の工業高校に進学したい。（H26.4～） |
| 保護者 | ・ 就職や一人暮らしなど、自立した生活を送って欲しい。（H26.4～）・ 県立高校に進学して欲しい。（H26.4～） |
| 中・長期目標（卒業まで） | 学習 | ・ 本人が希望する高校に進学できる学力を身に付ける。（H26.4～）・ 集中して授業に取り組む、ノートを取る、忘れ物をしないなどの基本的な学習態度を身に付ける。（H26.4～） |
| 生活・行動 | ・ 役割や課せられている課題を、期限などに沿って遂行することができる。（H26.4～）・ 時間を守る。（H26.6～） |
| 対人 | ・ 自分の気持ちを、言葉で伝えることができる。（H24.6～） |
| 学年目標 | １年生 | 学習 | ○ 全ての授業で、眠ったりすることなく集中して取り組むことができる。○ プリントなどの整理を自分で行うことができる。 |
| 生活・行動 | ○ 教室移動時に、時間を守ることができる。◇ 定期的に、ロッカー及び机の中の整理整頓をすることができる。 |
| 対人 | ○ 仲の良い部活の友人に対して、気持ちを言葉で伝えることができる。○ 担任や部活の顧問に、相談や自己申告をすることができる。 |
| ２年生 | 学習 |  |
| 生活・行動 |  |
| 対人 |  |
| ３年生 | 学習 |  |
| 生活・行動 |  |
| 対人 |  |

氏名　　宮崎　三郎

（様式１－４）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 現在の支援体制 | 関係機関名 | 担当者・連絡先 | 支援内容 | 引継事項 |
| ○○○○支援学校（H21.2.5～） | ○○ ○○教諭（チーフコーディネーター）090-0000-0000 | ・ 中学校での支援会議に参加する。 | 　中学校入学のタイミングで、◆◆エリアコーディネーターに支援を引き継ぎ。支援会議には参加して、小学校での支援の経緯を踏まえて助言する。 |
| ◇◇病院（心療内科）（H22.3.8～） | ○○医師0986-00-0000 | ・ ２か月に１回の通院。服薬の処方をする。 | 服薬の効果に関して、気になる様子がある際の、学校からの直接連絡について保護者了解済み。 |
| △△発達障害者支援センター（H22.7.26～） | ○○相談員○○心理士0986-00-0000 | ・ １か月に１回通所。本人と面接し、スキル学習を行う。また、母親と面接し、家庭での支援についての助言を行う。 | 学級担任及びCoが、スキル学習の様子を参観することについて、○○相談員より依頼あり。 |
| ●●中学校（拠点校）（H26.2.16～） | ◆◆ ◆◆指導教諭（エリアコーディネーター） | ・ 指導や支援の方法についての助言を行う。・ 中学校での支援会議に参加する。 | 　 |
|  |  |  |  |
| ※３年進級時をめどに、地域若者サポートステーションへのつなぎを行う。（H26.10/21支援会議にて合意形成 学級担任▲▲記入） |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

個別の教育支援計画【中学校】

|  |  |
| --- | --- |
| 合理的配慮の観点 | 提供する合理的配慮 |
| 観点①教育内容・方法 | ①-1教育内容 | ①-1-1学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮 |  |
| ①-1-2学習内容の変更・調整 |  |
| ①-2教育方法 | ①-2-1情報・コミュニケーション及び教材の配慮 |  |
| ①-2-2学習機会や体験の確保 |  |
| ①-2-3心理面・健康面の配慮 |  |
| 観点②支援体制 | ②-1専門性のある指導体制の整備 |  |
| ②-2幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解を図るための配慮 |  |
| ②-3災害時等の支援体制の整備 |  |
| 観点③施設・設備 | ③-1校内環境のバリアフリー化 |  |
| ③-2発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮 |  |
| ③-3災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮 |  |

個別の教育支援計画【全校種共通】

（様式１－５）

氏名　　宮崎　三郎

（様式２）中学校

個別の指導計画

「個別の指導計画」

　長期にわたる支援の方針等を示している「個別の教育支援計画」を、指導のために具現化した計画です。学年目標や短期目標を設定し、それぞれの目標達成に向けて、指導・支援の手立て等を児童生徒一人一人の実情に応じて、具体的に計画していきます。

|  |  |
| --- | --- |
| 氏名 | 宮　崎　三　郎 |

平成２６年度

個別の指導計画【中学校】

（様式２）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 氏　名 | みやざき　さぶろう | 性　別 | 　　男　 | 作成日 | 平成２６年　○月　△日 |
| 宮崎　三郎 |
| 学校名 | ○○立○○中学校 | 学　年 | １年 | 担任名 | ○○　○○ |
| 学年目標 | 学習 | ○ 全ての授業で、眠ったりすることなく集中して取り組むことができる。○ プリントなどの整理を自分で行うことができる。 |
| 生活・行動 | ○ 教室移動時に、時間を守ることができる。◇ 定期的に、ロッカー及び机の中の整理整頓をすることができる。 |
| 対人 | ○ 仲の良い部活の友人に対して、気持ちを言葉で伝えることができる。○ 担任や部活の顧問に、相談や自己申告をすることができる。 |
| 前期 |  | 短期目標 | 手立て・留意点 | 変容・評価 |
| 学習面 | ①　説明を聞くときには、付箋紙にメモをとるという習慣を身に付ける。 | ①　予め付箋紙を準備しておき、説明を聞く際に、大事だと思ったことや、質問したいこと、意見を言いたいことをメモして、枠を設けたワークシートに貼り付けることで、最後まで集中して授業を受けることができるようにする。 |  |
| ②　授業で使ったプリントをファイルに綴じることができる。 | ②　書くことが苦手であることから、授業のＵＤ化の一環として、穴埋め式のワークシートをできるだけ準備するよう、各教科で共通理解する。その際、専用のファイルも準備し、授業の終わりにワークシートを綴じる時間を設けるようにする。 |  |
| 生活・行動面 | ①　教室移動のときには、先に移動してから他の用事を済ますことを習慣化できる。 | ①　家庭の協力を得て、教科ごとにジッパー付きの袋を用意し、教科書や資料集等をひとまとめにしておく。①　学年全体で教室移動時の約束として、まず移動してから他の用事を済ますようにする。 |  |
| ②　自分で決めた日時に、ロッカーと机の中の整理整頓に取り組むことができる。 | ②　片付けをする日時を自分で決めさせる。②　片付いている状態の写真と物の配置図を準備し、参考にできるようにする。 |  |
| 対人関係面 | ①　仲のよい部活の友人と行動していて、自分の思い通りにならなかったときに、「残念だけどしかたないよね」と言うことができる。 | ①　ＳＳＴで繰り返し練習を行い、賞賛することで、実際の場面でもやろうとする自信を持つことができるようにする。①　本人が言えたときに、「分かってくれてありがとう。」と返してくれるよう友人に理解を求める。 |  |
| ②　昼休みに嫌なことがあったときには、学年職員室に来て担任に相談できる。 | ②　“困ったときは○○先生に相談”と書いたカードを常にポケットに入れておき、それを見ることで気づくことができるようにする。②　相談に来たときには、まず来ることができたことを褒め、次回につながるようにする。 |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 後　　　期 |  | 短期目標 | 手立て・留意点 | 変容・評価 |
| 学習面 |  |  |  |
| 生活・行動面 |  |  |  |
| 対人関係面 |  |  |  |
| 校内支援体制 | ・　校内委員会で、本生徒の特性と配慮すべき点について全職員で共通理解を図り、授業中の配慮及びテストでの配慮、並びに対人関係面の約束事について確認する。 |
| 本年度のまとめ | 関係機関との連携 | ・　服薬に関して、異常が見られたときには担任又は養護教諭に連絡する。担任又は養護教諭は、主治医及び保護者に連絡する。・　ＳＳＴに関しては、△△発達障害者支援センターで受けている内容を参観して、校内での指導の参考にする。 |
| 学年目標に対する評価 |  |
| 次年度への引継事項及び課題 |  |

個別の指導計画【中学校】

氏名　　宮崎　三郎

（様式２）

氏名　　宮崎　三郎

№（　　　）

|  |  |
| --- | --- |
| 月　日 | 記録・特記事項など |
|  |  |